

第10回グローバルヘルス  
戦略推進協議会

令和6年11月14日

資料1-1

# グローバルヘルス戦略フォローアップ 外務省資料

## 主な日程(保健関係)

24日

- 閣僚会合プレナリー・セッション1:ロバロUHC2030共同議長がゲストスピーカーとして発言。
- Gavi・AUC主催テーマ別イベント「アフリカにおける新しいパートナーシップ:日本企業のイノベーションで加速するUHC達成に向けた取組」

26日

- 日本国際交流センター(JCIE)、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)主催テーマ別イベント「アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のためのグローバルヘルス・ファイナンス:成果の最大化に向けたパートナーシップをいかに推進するか」
- 国際保健関係機関幹部による赤堀外務審議官表敬

## 訪日した国際保健関係機関幹部



ロバロ  
UHC2030  
共同議長



アヴァフィア  
ユニットエイド  
事務次長



エイルワード  
WHO  
UHC・ライフコース担  
当事務局長補



サラカ=ヤオ  
Gaviワクチンアライアンス  
資金調達局長



馬淵  
グローバルファンド(GF)  
保健システム部長

## 1 概要

- ◆8月24日(土)、Gaviワクチンアライアンス(Gavi)及びアフリカ連合委員会(AUC)が、TICAD閣僚級会合テーマ別イベント「アフリカにおける新しいパートナーシップー日本企業のイノベーションで加速するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)達成に向けた取組ー」を開催。我が国から武見厚労大臣及び深澤外務大臣政務官が出席するとともに、ガーナ共和国外務地域統合大臣、AU保健・人道問題・社会開発担当委員等のアフリカの閣僚や代表者、WHO等の国際保健機関の代表者が参加。
- ◆本イベントでは、アフリカにおける新しいパートナーシップに関連して、重要なテーマである保健とイノベーションについて、基調講演及びパネルディスカッションが行われた。

## 2 ポイント

### (1) 武見厚生労働大臣 開会挨拶(要旨)

◆日本はUHCの実現に向けた国際的な議論をリードし、アフリカの多くの国々を支援してきており、Gaviとのパートナーシップも通じアフリカにおけるUHC達成に向けて取り組んでいる。本会合での議論は、官民が一体となり、アフリカのUHC達成に向けた取り組みを加速させる機会となる。

### (2) 深澤外務大臣政務官 挨拶(要旨)

◆国際社会は改めてUHCを達成するという目標を思い起こし、行動する必要がある。全ての人々が予防接種や保健サービス等に公平にアクセスできるよう、知見を共有し、連携を促進していく必要がある。日本政府としても、日本とアフリカ、そして保健関係機関や民間企業など多様なパートナーとの関係を多層的に広げ、課題解決を共創するよう、取組を進めていく。

### (3) パネルディスカッションにおける議論概要

◆日本の民間セクターの技術的専門性と革新性をアフリカ諸国における支援に活用する重要性が指摘されるとともに、持続可能な資金調達の重要性、知見やベストプラクティスの共有を促進するためのUHCナレッジ・ハブへの期待が示された。



(武見厚生労働大臣 開会挨拶)



(深澤大臣政務官 挨拶)

## 1 概要

◆8月26日(月)、日本国際交流センター(JCIE)とセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)が、TICAD閣僚級会合テーマ別イベント「**アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のためのグローバルヘルス・ファイナンス:成果の最大化に向けたパートナーシップをいかに推進するか**」を開催。本会合には、**我が国から穂坂外務大臣政務官及び武見厚労大臣が出席するとともに、国際保健に関わる様々な機関の出席者が顔を揃えた。**

◆本イベントでは、**援助効果の最大化を図るために何をすべきか、特に、グローバルヘルス・イニシアティブ(GHI)と国際開発金融機関(MDB)が連携していかに能力強化を支援できるか**について、議論された。

## 2 ポイント

(1)穂坂外務大臣政務官 開会式挨拶(要旨)

◆**UHCを達成する上でファイナンスが重要**。それぞれの国の国内資金や、公共部門のみならず民間資金を動員すべきである。**グローバルヘルスに関わる様々な主体間の役割分担や資金の流れについて、重複を排除し、相互補完させるべき。**

(2)武見厚生労働大臣 ハイレベル対談発言(要旨)

◆**アフリカ諸国等途上国のUHC達成に向けた取組を支援するため、WHO及び世界銀行と連携し、2025年に日本に「UHCナレッジハブ」を設立する予定。**

(3)本イベントにおける議論概要

◆**ハイレベル対談では、資金の有効活用やGHI・MDB間の連携の重要性が強調され、続くパネルディスカッションでは政府、GHI、主要パートナー及び市民社会の相互協力の重要性が指摘された。**中村地球審は総括コメントとして、ルサカ・アジェンダの具体的履行に向けた努力を期待する旨発言。**エチオピアやガーナ視察を行った国会議員からは、更なるアフリカ諸国への支援強化の決意が述べられた。**



(穂坂大臣政務官・開会挨拶)



(ハイレベル対談の様子)

# 国際保健関係機関代表者等による赤堀外務審議官表敬

## 1 概要

- ◆ 8月26日(月)13時45分から約30分間、5つの国際保健関係機関の代表者等が赤堀外務審議官を表敬。
- ◆ 具体的には、①ロバロUHC2030共同議長、②エイルワードWHO事務局長補(UHC・ライフコース担当)、③アヴァフィアUnitaid事務次長、④サラカ=ヤオGavi資金調達局長、⑤馬淵GF保健システム部長と国際保健に関する意見交換を実施。
- ◆ 赤堀外務審議官からは、国際保健関係機関代表者等の訪日を歓迎し、TICAD閣僚会合・保健関連テーマ別イベント出席やアフリカ地域を含む国際保健分野における取組に謝意を伝達するとともに、国際保健分野で日本が果たしてきた貢献を改めて想起し、官民双方を含む日本との一層の連携強化を懇話。

## 2 ポイント

- ◆ 赤堀外務審議官から、各国際保健関係機関がポスト・コロナの時代におけるUHC達成に向け、また、国際保健を通じて人間の尊厳が守られる世界を作るべく全力を尽くしていることに、敬意を表明。
- ◆ 各機関の代表者等からは、UHC達成を含む国際保健における日本の役割に強く期待する旨が述べられ、具体的な施策に関する提案が行われた。
- ◆ これに対し、赤堀外務審議官は、人間の安全保障の実現にとって不可欠な基盤であるUHCの達成を含む国際保健において、日本は各機関と緊密に連携を取り、パートナーとして共に歩みを進めていきたいと述べた。



## 1 主な日程(保健関係)

- 22日 アフリカCDC主催エムボックスに関するオンライン会合
- 23日 USAIDとのMOC署名式及び中村地球審とガワンデUSAID長官補との会談
- 24日 N4G栄養サイドイベント
- 25日 中村地球審とデュヌトン・ユニットエイド事務局長との会談  
中村地球審とベルメホ・IPPF事務局長との会談  
中村地球審とケンガソン米国務省国際保健安全保障・外交局長(大使)との会談
- 26日 AMRハイレベル会合  
UHC2030主催ルサカ・アジェンダに関する会合
- 27日 外交当局間の国際保健安全保障チャンネル(FMC)閣僚会合
- 27日 中村地球審とカネムUNFPA事務局長との会談

## 2 各イベント・会談概要

- **アフリカCDC主催エムボックスに関するオンライン会合(22日)**  
中村地球審がオンラインで参加し、コンゴ(民)を中心としたエムボックス流行に係るワクチン供与等の日本の取組を説明。
- **USAIDとのMOC署名式及び中村地球審とガワンデUSAID長官補との会談(23日)**  
岸田総理の米国公式訪問(本年4月)の成果も踏まえ、外務省と米国際開発庁(USAID)との協力覚書に署名。同長官補とバイ会談では、エムボックス流行への対応も含む様々な協力について議論。
- **N4G栄養サイドイベント(24日)**  
中村地球審によるスピーチでは、国際社会の栄養課題における日本の貢献や、東京栄養サミット2021後の進捗状況を報告の上、2025年のパリ栄養サミットに向けてドナー、市民社会、学術機関、各国政府の積極的な参加を呼びかけた。また、フランスのイニシアティブで設置されたトロイカ体制を歓迎し、日仏米でN4Gパリの成功に向けて協力していくことを確認。



中村地球審とガワンデUSAID長官補



日仏米N4Gトロイカ

中村地球審スピーチ

## 2 各イベント・会談概要(続き)

- **中村地球審とデュヌトン・ユニットエイド事務局長との会談(25日)**  
低中所得国における医薬品への公平なアクセスの実現の分野における協力のあり方等について議論。
- **中村地球審とベルメホ・IPPF事務局長との会談(25日)**  
性と生殖に関する健康と権利(SRHR)や人口問題の分野における協力のあり方等について議論。
- **中村地球審とケンガソン米国務省国際保健安全保障・外交局長(大使)との会談(25日)**  
コンゴ(民)を中心としたエムポックス流行に関する対応も含め、日米の国際保健外交について幅広く意見交換
- **AMRハイレベル会合(26日)**  
4か国の政府首脳、1か国の副首相、65の加盟国の代表、WHO、FAO、WOAH、UNEP等の国際機関などの代表の出席を得て、薬剤耐性に関する政治宣言がコンセンサスによって承認された。日本からは井上肇厚生労働省国際保健福祉交渉官が本会議(Plenary segment)において、喜多国際保健戦略官がマルチステークホルダーパネルにおいて発言。
- **UHC2030主催ルサカ・アジェンダに関する会合(26日)**  
UHC2030等が主催(日本も共催)した会合に出席し、UHCを推進してきた日本として、2023年12月に発出された、より良い国際的なヘルス・ファイナンス・エコシステムを形成するための提言であるルサカ・アジェンダに関連する取組を歓迎するとともに、同アジェンダを踏まえ、取組を更に前に進めていくための議論に貢献。
- **外交当局間の国際保健安全保障チャンネル(FMC)閣僚会合(27日)**  
ブリンケン米国務長官が主催した会合に出席し、国境を越える健康危機への対応において外交当局間での連携を進めていくことの重要性に触れつつ、中村地球審より、日本のG7議長国の成果や、現下のエムポックスに係るワクチンの供与等の日本の取組について発言。
- **中村地球審とカネムUNFPA事務局長との会談(27日)**  
性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する日本の貢献と成果をまとめた小冊子が手交され、政府や民間企業を含む日本の実績に対する深謝が述べられた。

